

2021年2月22日



キリスト教センター 通信 Vol.31

激励メッセージリレー



タイトル 『贈る言葉』

「主御自身があなたに先立って行き、主御自身があなたと共におられる。主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない。恐れてはならない。おののいてはならない。」申命記31:8

大学チャプレン 河村 博之

この一年間、新型コロナウイルス感染拡大による様々な影響を受けてきました。WEBによる授業、対面と併用で、あるいは、国内で足止め、というこれまで経験したことのない体制に、学習意欲を失い、何のために大学生になったのか、分からない。という戸惑いと嘆きの声を聞きました。

チャペルも同じです。大学の方針により、気密性の優れた、逆に言えば、換気の整わないチャペルでの昼の礼拝が出来なくなりました。聖歌隊の活動、チャペルでの奉仕活動、参加者へのA0ポイントの提供、ヒロシマ平和旅考、談話室の活用、全て中止になりました。センタースタッフで知恵を絞った結果、前期・後期の昼の礼拝の時間と曜日を変更し、場所をエントランス(入口)で行う。礼拝は、感染防止の観点から、パイプ椅子を20脚並べ、チャプレンの司式と奨励。A0ポイント対象外とする。音源は、CDで、等々。

WEBによる配信はできませんでしたが、それでも、教職員・学生、学内関係者の参加があり、暑い日も寒い日も、少ない人数ではありましたが、やり通すことができたのは、収穫だったと思います。「禍を転じて福と為す」ということわざがあります。このような状況に置かれても、「神様、どうぞお聞きください。」という祈りを強く持ち、生きる術を探る。わたしはこの1年間、活動上の制約はありましたが、神様がわたしたちの道しるべとして、指し示される場所を歩ませていただける貴重な経験をさせていただいたと思っています。コロナの影響は、これからも続くでしょう。非常事態宣言発令の中で、この原稿を記しています。日々刻々と状況は変わっていくでしょう。しかし、神様はわたしたちを見放されぬ、必要以上に、恐れたり、おびえたり、おののいてはいけません。そんなメッセージを、皆さんに贈ります。

この経験が、これからの人生で、きっと役に立つことがあります。大きな財産になりますように、チャプレンは、お祈りしています。また、どこかでお会いできる日を、楽しみにしております。

新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り

どうか、皆さんもお時間があるときにお祈りください

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼女一人ひとりの心を支え、お祈りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。

このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておさげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。

どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒してください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。

そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。

そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。

また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン

神戸国際大学
キリスト教センターの
HPリンクはこちらまで

